

不易流行

～和賀組社長からのメッセージ～

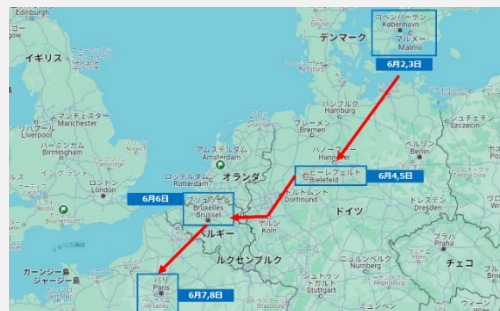
VOL.100 (2024.6.27)

令和6年度スローガン
過去最高業績への挑戦
～和賀組さんで良かったと言われよう～

株式会社和賀組 代表取締役 和賀幸雄

6/4日火曜日夕方飛行機でコペンハーゲンからドイツハノーファーに移動、バスにてビーレフェルトに到着しました。ビーレフェルトは人口 33 万人ほどの都市です。今回欧州視察をアレンジして頂いたのは、ビーレフェルト在住で日本人の永井宏治氏です。永井氏は 1981 年生まれ、東北芸術工科大学、ドルトムント工科大学ディプロム課程卒業後 2004 年からドイツ在住、エコ建築研究機関に約 10 年勤務したのち ECSP0 Consulting を設立、日本向けにドイツの建材を輸出や専門家や学生へのセミナーおよび企業へのコンサルティングを行っている一方省エネ改修・温熱換気の設備設計・工事の現場管理を手掛けています。

ドイツでは 2050 年までに建築物の一次エネルギー消費量を 2008 年比で 80%削減し、カーボンニュートラルを目指すという目標が建てられています。エネルギー消費量のうち建築物が占める割合は 4 割弱ですが、新築の割合は日本と比較してとても低く（年間減却戸数ドイツ 6,000：日本 11 万）、このことは日本の様なスクラップ&ビルドの仕事はほとんど皆無である事を意味しています。そのため目標達成には既存建築物の省エネ改修が不可欠となります。事実 2008 年から今日までの実績として、冷房費用・給湯・照明で消費されるエネルギーは 17%削減されています。



ドイツ建築業界の抱える課題



上記の政策を背景に人口変動による影響も含め建築業界は 4 つの課題を抱えているとされています。住宅の供給量を増やさなければならない反面、同時に建築物でのエネルギー消費を抑える必要があり、そのためには新築の供給だけでなく改修工事の拡大が避けて通れず、新築・改修や効率の良いエネルギー供給方法と共に簡素化を進め、広域でのスピードアップが求められているそうです。今回は工事の模様を紹介します。

ユニオン建設(株)安全大会



7月1日、池袋メトロポリタンホテルで開催され、当社鉄道工事部泉聡君が表彰されました。来賓としてJR東日本常務執行役員玉川岳洋鉄道事業副本部長が「JR東日本設備部門の課題と取り組み」と題して講演されました。この中で今年東北新幹線で発生した保守車両の油漏れによる輸送障害について触れ、「一日あたりの売上が40億円で今回の輸送障害では10万人に影響し、10億円の減収となった」と報告がありました。損害の大きさを改めて認識させられました。また玉川氏は「働いている人の命、お客様の命、仲間の命を守り」誰も死なない誰も殺さない」この事が重要であると強調されていました。

Sto クリテックジャパン全国代理店会議

7/12に開催された会議で、主催者（日本コンクリート補修・補強協会）会長として冒頭の挨拶をさせて頂きました。昨年度の実績はポリマーセメントモルタル TS100 の出荷が約 2,500t とここ数年横ばい、全国の代理店数は出入りがあるものの 62 社となっております。また施工実績報告として専務が昨年に施工した塩分吸着型モルタルによる八竜橋の施工報告をしました。



新・建設業地方創生研究会視察

7/19 愛知県豊橋市にある「株式会社オノコム」を訪ねてきました。同社は 1934 年創業で建築設計・不動産などを手掛ける総合建築業です。4 代目社長の小野達朗氏は日本の美大でデザインを学んだあと、イギリスロンドンにあるデザイン事務所に勤務、社長に就任してからは会社が手掛ける建築のデザインを全面的に見直し、最近では 007 で有名な英国のアストンマーチン社がデザインする日本第一号南青山住宅の設計施工を行います。また設計段階では 3D スキャナーと VR を駆使し、施主様がゴーグルを着けて疑似体験できるサービスを展開されていました。

